

GLSフィールドワーク / GLS Fieldwork

授業コード (科目ナンバリング コード)	48K01-001 (GG-GNL-3131)	科目名	GLSフィールドワーク / GLS Fieldwork1			担当者	森山 幹弘、塩 寺 さとみ
開講期間	Q 2 (集中)	単位数	3	学年	3~4	指定	選
履修対象学科	国際教養学科						
他学科履修	不可						
他の科目との関連							

[閉じる](#)

【副題】

フィールド（インドネシア）での実践知の形成

【授業概要】

この授業は演習及び実習形式で行われる。「GLSフィールドワーク」ではこれまでの国際教養学の学びを実際の社会でどう活用するのかを検討することを目的とする。そのために、実際に日本国内外の現地に1か月ほど滞在し、現地の人々との関わりながら種々の実習を通して、国際教養学の知がどのように実践できるのかを考察を深める。事前・事後指導と実際のフィールドワークを通して、自らのテーマを設定した内容について、観察や体験を通して分析・調査し、それを報告書にまとめる。

【到達目標】

- ・現地社会での暮らしに適應することができる能力を身につける
- ・フィールド調査のプロポーザルを作成し、調査を実施し、フィールドワークに必要な知識を身に付ける
- ・調査結果をまとめ、発表し、報告書を作成する
- ・インドネシア語を実践的に運用することができる

【授業計画】

第1週目と第2週目

基本的に月曜から金曜まで毎日3コマ（1コマ90分）の授業が開講される

インドネシア語の授業（13回）、英語でのインドネシアについての講義（10回）、芸術文化ワークショップ（1回）、ブルタミナ大学での講義と学生間交流から成り立つ。

第3週目

1コマのインドネシア語の授業（4回）とインドネシアのNGOやNPO組織でのインターンシップとフィールド調査、レポートの執筆を行う。最終日はフィールドワークの発表を英語で行う。

週末には、ジャカルタ市内見学、2週目はイスラム教育施設の訪問、3週目は芸能村でのワークショップを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習等）】

- ・インドネシア語の授業の予習と復習を毎日行う。
- ・インドネシアでの暮らしに慣れ、健康管理を行うとともに、社会に適應するように努める
- ・インターンシップではインドネシア語を使った実践的な職場体験を積極的に行う

【評価方法】

インドネシア大学の授業においては、インドネシア語の担当教員と講義の担当教員が、出席（20パーセント）、語学の能力（試験による；30パーセント）、フィールドワークのプレゼン（30パーセント）を評価する。インドネシア大学での評価に加えて、最終レポート（英語）（20パーセント）を合計して、本学教員が成績評価と単位の付与（3単位）を行う。

【テキスト／参考文献】

インドネシア大学から配布される。

【その他】

事前ミーティングには必ず出席すること。

【添付ファイル1】

【添付ファイル2】

【添付ファイル3】

【リンク】